



こども家庭センターだより

あした

明日もしあわせ通信 (第100号) 令和6年10月号

伊予市子育て応援宣言 ～育てよう未来の伊予 世界をかけるこどもたち～
子育て相談は こども家庭センター TEL (089) 989-6226

子どもたちに幸運が舞い込むことを願って

今年、ドジャースに移籍した大谷選手は「投げてよし、打ってよし。走ってよし。」と抜群の野球センスをもっていて、連日のニュースで流れる活躍ぶりを見て私は、努力する姿よりも天才としての姿を想像していました。しかし、実際の大谷選手の姿は、実はこつこつと努力をしているそうです。

私が心に残っているのは、以前の試合で大谷選手が四球を選び、1塁へ向かうときにグラウンドの芝生に落ちていたごみを何気なく拾い、後ろポケットに入れる姿が報道され、話題になっていたことです。

実は、この行動は大谷選手の出身高校である花巻東高校の野球部の佐々木監督の教えがあったからだそうです。

「ごみは、人が落とした運だ。ごみを拾う事は運を拾うこと。ごみを拾うことで自分自身にツキを呼ぶ。そんな考え方をしなさい。」

佐々木監督のもと、大谷選手は毎日のトレーニングの中に「体づくり」や「コントロール」などの技術面と同じように、「運」という目標の設定をしたのです。

そして、大谷選手が「運」の項目に「ごみ拾い」「部屋掃除」「あいさつ」「本を読む」など、8項目を書いていた。私は、この年まで、「運」は自分でコントロールできないと思っていたのですが、大谷選手は「運」を自分の行動や態度によって引き寄せようと努力していたのです。

私も何かを続けよう。伊予市の子どもたちに、幸運が舞い込むことを願って・・・。(H・T)

◇教育支援教室「はばたき」◇

はばたき教室に相談に来る生徒から、「学校に行きたくない理由が自分でも分からない。」といった話を聞くことがよくあります。このような場合、次のように接してみてはいかがでしょうか。



- 本人が話すまで無理やり原因を追及しない。 ●子どもの気持ちを尊重する。
- 家庭では普段通り接し、子どもに寄り添い見守る姿勢を示す。
- 子どもが安心して落ち着ける居場所を見つけられるように見守る。

いじめ等で不登校になったときは、原因を明らかにすることも大切ですが、子どもの気持ちをまず尊重し、どうするかを一緒に考えていこうとする姿勢を示すのもひとつの方法だと思います。子どもは、エネルギーが充電されることで、「〇〇をやってみよう。」といった気持ちが高まってくるものです。学校復帰への活力源にもなると思います。

はばたき教室は、教室生一人一人の個性、実態に応じた支援に努めています。(T. S)

ご相談や問い合わせ先

TEL (089-989-5022)

教室専用携帯 (080-2974-4581)



今年の夏は、例年以上に暑い毎日でしたが、ようやく朝夕少し涼しくなり、秋の気配を感じられるようになりました。秋と言えば「食欲の秋」「スポーツの秋」といろいろ思い浮かびますが、今回は「読書の秋」をお勧めしたいと思います。「読書の秋」は、もともと中国の唐時代の詩人である韓愈(かんゆ)の漢詩が由来と言われています。「燈火(とうか)親しむべし」という言葉が日本に伝わり、“秋の夜は灯りをともして読書をするのにふさわしい”というイメージができました。読書週間は1947年「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社や図書館、マスコミ等が力を合わせて開催したことがスタートとなっています。今年のテーマは「この一行に逢いにきた」です。そこで、ちょっと私のお勧めの絵本を紹介してみます。(大人も子供も一緒に楽しめます)

「まるちゃんとほいっ！」 作：おのりえん ひかりのくに

(くまのお医者さんとまるちゃんのお話。まるちゃん…が、いい味だしてます)

「くすのきだんちのコンサート」 作：武鹿悦子 ひかりのくに

(大きなクスノキの中でくりひろげられるお話。全部で12冊のシリーズです)

「としょかんライオン」 作：ミシェル・ヌードセン 岩崎書店

(としょかにライオンがいたら、楽しいかも…と思えるお話です)

「だんまりこおろぎ」 作：エリック・カール 偕成社

(エリック・カールの色づかいがいです。秋にはピッタリ)

「Dream snow (ゆめのゆき)」 作：エリック・カール Philomel Books

(クリスマスの頃に読んでほしいです)

(S.S)

《おおぞら通信》

『連携』して対応しましょう

近年、各地で自然災害が数多く発生しています。今年の元日には、最大震度7の能登半島地震が起き甚大な人的物的被害を生みました。9か月以上たった今でも、復興にはまだ多くの時間が必要な状況が伝えられています。

また、7月の梅雨前線による豪雨では、伊予市双海の国道378号や松山城の北東斜面で土砂崩れが発生しました。さらに、8月8日夕方に起きた最大震度6弱の日向灘地震では、その後南海トラフ臨時情報が出され、私たちにも日常生活や社会経済活動の継続をしつつ、日頃の地震への備えや発生時の対応の再確認などが呼びかけられました。

災害には、一人ひとりが取り組む「自助」、地域で助け合う「共助」、行政が取り組む「公助」が連携して防災・減災を目指します。

お子様の不登校や引きこもりについても関係者の連携した取組が大切です。保護者の皆様のがんばりや状況の改善を支援するために、子どもの居場所『おおぞら』があります。まずは、電話でのご相談をお待ちしています。(M・T)

(☎ 989-5014)

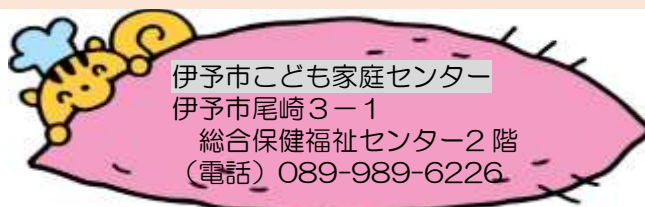


幼稚園に行き始めたK君。5月になると、「幼稚園はもう飽きた。」と言い出す日々。6月の運動会めざして練習が始まるとめずらしくて、ぐずぐず言わなくなった。(体操服で登園できるからかも・・・)運動会は、みんなの期待を裏切りながら、見る人を笑わせて、無事終わった。

夏休みが来たー！ 祖父母宅に、いとこたちが集まり、1か月間、楽しく遊んだ。夏祭り花火大会、海水浴・・・とても暑い夏だったが、元気に過ごすことができた。

8月下旬、K君の誕生日があった。4歳になったK君は、ちょっとお兄さんになった。大嫌いな歯の仕上げ磨きをワーワー言わずにでき、トイレも手助けなしでできた。

2学期が始まった。9月半ば、K君に出会った。「4歳のお兄ちゃんだから、幼稚園に張り切って行ってるかねー。」と声を掛けた。K君は、人差し指を口に当て(シーのポーズ)、「それは、言わんとなって。」という返事。♪楽しく園に行くのは一いつの一ひーかー♪ (T.T)



伊予市こども家庭センター
伊予市尾崎3-1
総合保健福祉センター2階
(電話) 089-989-6226